

会 議 録

会 議 名	市長とまちなかミーティング
開 催 日 時	令和元年 9 月 27 日（金） 15 時～16 時 30 分
開 催 場 所	勝目地区公民館
出 席 者	市長，副市長，総務課長，福祉課（課長，子育て支援係長），総務課（課長，行政係員），家庭倫理の会南薩子育て委員会（以下「子育て委」という。） 14 名 計 21 名
会 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめのあいさつ 2 活動紹介 3 グループワーク 子育てを学ぶ必要性和やかな家庭づくりを広げるために自分たちができること 4 グループ発表（主に共有） 5 まとめ 6 市長よりひとこと
議 事 の 要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 4 グループ発表（共有） 5 まとめ 共有した主な内容は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの方が子育て，親子関係など特に学ぶことなく結婚をし，親になり，こういうときはどうすればいいのか相談する親も近くにいなかったり，生活環境が変わり誰かに相談する人もいなかったりして，一人で悩み苦しんでいる。 ・ 親のストレスが子への虐待につながる境目になるかもしれない。子どもが被害者にならないよう，親が笑顔で，家族全員が健康であることが和やかな家庭づくりにつながっていくのではないか。 ・ 叱る前に先ずよく子どもを観察する。親が今思っていること，内面的なものが分かる，教えてくれる。 ・ 自分の不安やいろんなことを吐き出して，人から聞いたことから学び，家に持ち帰って家族で話し合っ，それを実践して親が，子どもたちが変わっていけば，和やかな家庭になっていくのではないか。 ・ 相談できる場所はいくつあってもいい。その中で自分が納得できる答えを探せる場所があるといい。

- ・ 悩みをお互いに吐き出しながら，家庭での在り方，親子の関係，夫婦の関係，そして自分が親との関係を振り返ることで，自分を深く見つめることがより和やかな家庭づくりということにつながるのではないか。
- ・ 親の心の安定が大事
- ・ できることなら妊娠期から子育てを勉強したい。
- ・ 知識はお守り。知っているということは，自分若しくは子どもを守るお守りになる。
- ・ 「和やかな家庭づくり」が大切なのは，家庭が「教育の場」だから。

6 市長からひとこと

皆さんが「子育てをしやすいまちづくり」にしていきたい。

子育てを学ぶ機会を通して，友達が，仲間がいるということが一番大切だと今日は感じた。

市としても穎娃・知覧とできた子育て支援センターを，川辺にも設立をしようということで協議している。子育ては重点目標なので一生懸命やっていきます。

会の内容

1 はじめのあいさつ 略

2 活動紹介 略

3 グループワーク

子育て委員長)

今からおよそ 40 分間，グループトークしていただきます。そのあとグループリーダーから発表していただきます。よろしくお願いします。

～グループワーク（40分）～

子育て委 1)

1 班です。私は子育ての係を 6 年くらいやってきました。まとめらしいまとめではないですけど，自分の子が大きくなったらこういう悩みも出てくるのかなとか，ゲームの問題やコミュニケーションの取り方など悩みをお互いに吐き出しながら，自分たちもまたホッとできたり，私たちもこういう頃があったなと振り返ることができたりする子育てセミナーの場づくりだったのかなと思いました。

子育てが終わってじゃあどうだったのだろうと子どもが親世代になったときにわかるのかなという言葉に，子どもを育てるのではなくて授かりものと

して、子どもたちがどう社会に羽ばたいていくのかというための家庭づくりというのを、子育てセミナーを通して自分を振り返る、自分を見つめる、その中で家庭での在り方、親子の関係、夫婦の関係、そして自分が親との関係を振り返ることで、自分を深く見つめることがより和やかな家庭づくりということにつながるのではないかと思います。

子育てを学ぶ必要性ということで、私も子育てセミナーを知ったのが指宿にいて自分の周りに誰もいない、親もいないなかで周りにいたおばちゃんにお誘いを受けて行きました。そのときに毎月毎月吐き出してきたことで、自分がその場で変わっていった。気持ちが切り替わること、心をリセットすることによって家庭で夫にこういう話だったよと会話が生まれるという意味で、社会のいろんな問題のなかで悩んでいる方、孤独に育てられている方が多いのですが、世の中全体を通して安心、希望とか喜びに向かっていける振り返りの場なのかなと思っております。

子育て委 2)

枕崎から参加している家庭倫理の会南薩の会長です。自分たちの班は、行政の方 2 人だけ南九州市で、あと 3 人が枕崎市、もう 1 人が南さつま市でした。申し訳ないと思いますが、この会が南薩 4 市で構成されていますので、こういう形になってしまいました。

子育て中に思うことという点で、仕事で働き方が難しい、子ども 4 人いて家庭と仕事のバランスがとりにくいといった意見、子育てセミナーで学ぶこと、またその場があることがありがたいといった意見、子どもの虐待に関して手を差し伸べてくださる人が近くにいるとありがたいということ、妊娠中に子育てセミナーを近所の方から知って、子どもと閉じこもりがちになっていたけど自分が出て行けるようになって、子育てセミナーに参加して自分が変わっていったという体験を話していただきました。また SOS を拾ってくれる場所がある、その間口を広げていきたいと行政の方からはいただきました。

和やかな家庭づくりを広げるためにということで、まずは自分から挨拶をしていく。明朗、愛和、喜働というのがあります。自ら実践していけば、和やかな家庭になっていくのではないかと思います。自分が笑顔でいられるように、怒ったときには子どもが被害者になってしまうので、子育ては親育て。そして家族全員が健康であることが和やかな家庭づくりにつながっていくのではないのでしょうかということでした。

子育て委 3)

この度、子育て副委員長を拝命しました。3 班で話を発表したいと思えます。家庭の中で何が問題かということで、「核家族」というのが問題という

か、取り巻く環境の中で取り上げられる話題なのかなと。子どもの面倒を見てねとかおじいちゃんおばあちゃん言える部分があるけど、親と同居しないことを引き換えに気を使わない生活を得たが、逆に助けてと気軽に言える環境を手放してしまったのだなと思ったところでした。昔は隠居とかが家の敷地内にあって、ご飯とかお風呂とか一緒に過ごして助け合っていたけど、そういう家庭も減りつつあるし少なくなっている、そういう中で私たちは子育てをしているねという話が上がりました。

テーマから話が脱線しましたが、私が本日こういう風に持っていきかけたという話をさせてください。私は4歳と2歳の2人の男の子の子育てをしているのですが、上の子がわんぱく期で言うこと聞かないし、下の子はいいや期に入って言葉もしゃべれるようになったのですが、なんて言っているのかわからない部分があって自分自身がいらいらすることがある、兄弟喧嘩もものすごくするし家も片付かない、親のストレスというのが子の虐待とかの境目なのかなと最近思うのです。そういう日々の中で、自分の思いをいう場が必要だなと。思いを吐き出して、またそこから持ち帰って家庭の中でそれを話して和やかに暮らす、というのが子育てセミナーです。いろいろ学ぶことが大事だなと、できることなら妊娠期から子育て勉強したいなと思っています。小学校に上がると家庭教育学級とかあって親が学ぶ機会があるのですが、乳幼児という私たちにはあえて学ぶ機会がないなと振り返って思います。行政からこういう勉強会があるよという案内もないよな、健診に行っても子どものチェックとかしてもらって、食べ物とか栄養指導はあるけど、家庭のことの大切さ、夫婦が仲良くとか、シングルの方ももちろん、親の心の安定が大事なのだよというそういう学びがないよなと思います。そういうのがあってほしいなということを、さきほど市長さんにもお話をしました。

あと、相談できる場所はいくつあってもいいなと普段思います。たくさんあって相談して、その中で自分が納得できる答えを探せる場所があるといいなって思っています。その一つにこの子育てセミナーを役立ててほしいなと思います。

あとは「親に育てられたようにしか育てられない」とよく聞いたりするのですが、それを思ったときに、自分の親には申し訳ないけど、子どもを叱ったりする瞬間とかに、親と同じ怒り方をしているとか思うので、これはよくないな、ここで何とかしたいなといつも自分は思うことがあるのですよね。自分が学ぶことによってリセットではないですけど、何か違うやり方ができる方法を学べる機会があるといいなとすごく思っています。

あと、今年の1月に外国人のお母さんと友達になったのですが、話を聞

く中で、御主人が日本の方で、子育てをしていく中で孤独だったのだなというのを知って。小児科で出会ったのですが、それを聞いてからは「熱が出たよ」とかLINEが来たらできる範囲で駆けつけて行って顔を見るだけだけど、「どう、大丈夫」と声をかけるようにしている。日本人もだけど、外国人のお母さんもいるってことが気付きだったのですね。なので、そういう人もいるというのをこの場を借りて申し上げたいと思いました。

あと、やはり「知識はお守り」だと思います。知っているということは、自分若しくは子どもを守るお守りになると思います。ぜひ子育てセミナーを活用して一人でも多くお母さんたちに知ってもらいたいなと思います。

子育て委員長)

講師にこの会のまとめをお願いします。

子育て委講師)

今日のテーマは「子育てを学ぶ必要性和やかな家庭づくりを広げるために自分たちができること」ということで、皆さんにグループトークしていただいて、まとめをグループ長に発表していただきました。

私たち倫理研究所の目標は、「和やかな家庭づくり」を目指しているという、地域に1軒でも多く和やかな家庭になっていただければすごく幸せになるだろうということ。どうして「和やかな家庭づくり」が大切かというと、家庭が「教育の場」だからです。その教育の場で何をするかと言いますと、新しい命を育てますし、よき生活習慣をつけて社会に出て困らないように子どもさんをしつける場でもあります。その家庭が和やかでなければ、子どもたちは親の顔色を見て生活するのは、なんか安心できないのですよね。和やかな家庭で育ったお子さんたちは、個性とか、伸びやかに成長していきますので、いかに和やかな家庭が大事かということの子育てセミナーを通して説明しております。グループトークの発表の中で、お互い挨拶をすとか声かけをする、仲良くするという雰囲気をお互いがつくっていく、何とも言えない家庭のふんわりとした何でもない当たり前の生活の中に子どもたちがいるというのが大事だなと思います。

そして、子育てを学ぶ必要性和いいますのは、ほとんどの方が子育て、親子関係など特に学ぶことなく結婚をして、親になり、こういうときはどうすればいいのかなと相談する親も近くにいなかったりして、誰かに相談する人もいない、一人で悩み苦しんでいる人が多くいらっしゃいます。じゃあどうやって子育てを学んでいくかと言いますと、このような子育てセミナーに参加していただいて、自分の不安やいろんなことを吐き出して、人から聞いたことから学び、家に持ち帰って家族で話し合っ、それを実践して子どもたちが変わっていく。お母さん方の笑顔で子育てができるのが何よりも子ども

にとっては安心ではないでしょうか。この「子育てを学ぶ必要性」というなかで、わたくしたちの倫理研究所の純粹倫理という子育てが、親子相関と言いまして顔や容姿が似ているだけではなくて内面的なところで親とは深いところにつながっていると説きます。子どもに何か問題があったときは、子どもをよく観察すれば、親が思っていること、親がイライラしているときは子どもがぐずったり、親に心配事があったりすると、子どもが何か教えてくれるのです。親のイライラとかそのときの気持ちをすごく子どもが教えてくれるので、それさえ知っていれば子育てはとても楽にできるのではないのでしょうか。できると思います。だって子どもを叱らなくていいのです。叱る前に先ずよく子どもを観察するというのが、私たちの純粹倫理という子育てのひとつです。

また捨て育て（ここでは、親たちは子どものことを気にかけ過ぎずいらぬ心配をせずにできるだけ自然のままにのびのびと育て上げることをいう。）という、心配をしすぎないという気持ちが大事。皆さんが楽しく子育てができると思いますので、心の切り替えから和やかな家庭を作っていただけたらなと思います。

子育て委員長)

最後に市長よりひとことお願いします。

市長)

今日は「まちなかミーティング」を企画したところ、ご応募いただきましてありがとうございます。今日はお母さん方から話を聞かせていただきました。子どもから目が離せなかったり、夜も熱を出したり、医療費も大変な額になっていたりというようなことで、大変だと思っております。我々も「子育て支援策」というのを最重点目標と、市政でもそういう計画を作っています。皆さんが「子育てをしやすいまちづくり」にしていきたいと思っております。またこのようなセミナーが開かれるということでお母さんたちも力づけられるのではないかと。こういう友達が、仲間がいるということが一番だと思います。このようなセミナーが開催されるということが大切なことだと今日は感じたところです。

市としましても子育て支援センターと、知覧と穎娃はできましたので、川辺にもやろうということで、設立をしようということで協議しております。市もできることは精一杯支援をさせていただきたいと思っております。協力を、子育ては大事なことなので、重点目標なので、一生懸命やっていきますので今後ともよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

子育て委員長)

本日は大事な時間、足を運んでいただきましてありがとうございます。

これからもコツコツとまず自分たちの生活が和やかに過ごせるように勉強しながら広めていきたいと思えます。